

ふりがな 氏 名	たけうち まさひろ 竹内 正裕	職 名	教授
取 得 学 位	修士(学術)	学会での受賞歴	なし
主な担当科目	教育の方法と技術、総合的学習の理論と方法		
所 属 学 会	日本グループダイナミクス学会、日本教育方法学会、日本授業UD学会、日本教育情報学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
教育方法の実践	平成30年4月～	授業において使用するスライド資料を事前に学内のLMSを利用し学生の予習・復習に活用させている。 また、オフィスアワー及びメールにて、学生からの相談を随時受け付けている。
作成した教科書・教材	平成30年4月～	教育の方法と技術の授業においてタブレットを利用した国語と算数の理解補助のための教材を作成し、学生が作成する際の参考教材として活用している。
指導案のデータベース化	平成30年10月～	教育実習等で学生が作成した指導案をデータベース化し、指導案の検討及び活用できるようにしている。
スライドでよくわかる教育の方法と技術	令和2年3月	教育の方法と技術の授業におけるスライド資料を冊子にまとめ学生が参照できるようにした。
小学校教育実習の手引き	令和3年3月～	小校教育実習事前指導に使用する手引きの改訂 小椋邦夫・榊川知と内容の修正・追加をする。
高大連携体験授業	令和3年12月	名古屋女子大学高校2年生を対象に大学体験授業(教育の方法と技術)を行う。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単・共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・ 展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
著 書	教員免許状更新講習の理解を深めるための教育・保育の論点ガイド No.3	共	平成30年7月	三恵社	第1章3節 JSLの子どもたちへの支援について執筆 pp.18～24
	進路指導・キャリア教育における評価	単	平成30年9月	三恵社	進路指導・キャリア教育における評価について職場体験の実践を通して記述した。46頁

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
著書	シリーズ教育・保育の論点 教授法と子ども理解	共	令和元年7月	三恵社	第2第4プログラミング教育にどう取り組むか pp.72～78
	シリーズ教育・保育の論点 理論と実践	共	令和2年8月	三恵社	第1部第4章 ユニバーサルデザインを視点とした授業 pp.24～31
	シリーズ教育・保育の論点 新時代の学び	共	令和3年7月	三恵社	第1部第6章 学級集団の理解と形成 pp.41～48
	改訂 スライドでよくわかる教育の方法と技術	単	令和3年10月	三恵社	教育のICT化への追記を含め教育における方法と技術について記述した。 110頁
	総合的な学習の時間の学習活動 ー社会との関わりを意識してー	単	令和4年9月	三恵社	総合的な学習の時間の学習活動において特に地域連携を意識した活動過程について記述した。 80頁
スライドでよくわかる総合的な学習の理論と方法	単	令和4年12月	三恵社	総合的な学習の理論と実践について14項目をスライドにまとめ視覚的に理解できるように記述した。 100頁	
論文	ワークショップ型授業研究の方法と課題	単	平成30年12月	名古屋女子大学 児童教育学科 児童教育論集第2号 7頁	ワークショップ型授業研究についてマトリクス法、概念化法等の方法と課題について記述した。
	ユニバーサルデザインの授業における学生の視点	単	平成31年3月	名古屋女子大学 研究紀要第65号 8頁	ユニバーサルデザインの授業 VTR生がどんな視点で有効な手立てを抽出しているかを検討した。

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・ 展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
論 文	大学における効果的な授業法の研究 7－学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発－	共	令和元年5月	名古屋女子大学 総合科学研究第13号	授業観察においてインプットをKJ 法的手法により学修させた。この方法についての長所と短所を記述した。 全47頁 (pp. 32～34)
	ユニバーサルデザインの授業における小学校教員養成課程学生と保育士養成課程学生の視点	単	令和2年3月	名古屋女子大学 研究紀要第66号11頁	ユニバーサルデザインの授業 VTRから小学校教員養成課程学生と保育士養成課程学生がどのような視点で有効な手立てを抽出しているかを比較検討した。
	SGE エクササイズにおける対面とリモートの比較	単	令和3年12月	名古屋女子大学 児童教育学科 児童教育論集第5号 10頁	SGE エクササイズにおける対面とリモートの比較を行い効果の共通性と場面特性における特異性を検討した。
	大学における効果的な授業法の研究 8－本学における効果的なアクティブラーニングの開発－	共	令和4年12月	名古屋女子大学 総合科学研究第16号	ワークショップ型研究 (KJ法) における授業内容の定着化と発展について記述した。 全37頁 (pp. 12～13)
	約束と授業への遅刻の是認及び否認と集団適応	単	令和4年12月	名古屋女子大学児童教育学科 児童教育論集第6号 9頁	集団適応が良好な個人は約束や授業の遅刻に対する是認と否認において規範意識が私的見解より厳しいことを検討した。

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	授業研究における ICT 化の提案	単	令和 5 年 3 月	名古屋女子大学 研究紀要第 69 号 11 頁	授業研究における指導案、参観方法、授業研究協議会を ICT 化により効率化する方法を提案した。
その他 (報告書)	大学における効果的な授業法の研究 7—学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発— (機関研究中間報告)	共	平成 30 年 5 月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第 12 号	遠山佳治 (代表) 竹内正裕, 他 13 名 (P. 39)
	大学における効果的な授業法の研究 8—本学における効果的なアクティブラーニングの開発— (機関研究中間報告)	共	令和 2 年 5 月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第 14 号	三宅元子 (代表) 竹内正裕, 他 12 名 (p. 137)
	大学における効果的な授業法 8 (平成 30~令和 2 年度)—本学における効果的なアクティブラーニングの開発— (機関研究中間報告)	共	令和 3 年 5 月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第 15 号	三宅元子 (代表) 竹内正裕, 他 12 名 (p. 45)
	大学における効果的な授業法 9 (令和 3 年度~令和 5 年度)—本学教育に適した効果的なインスタラクショナルデザインに関する研究— (機関研究報告)	共	令和 4 年 3 月	名古屋女子大学 『総合科学研究所だより』第 34 号	竹内正裕 (代表) 市村由貴他 7 名 1 頁
	大学における効果的な授業法 9 (令和 3 年度~令和 5 年度)—本学教育に適した効果的なインスタラクショナルデザインに関する研究— (機関研究中間報告)	共	令和 4 年 5 月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第 16 号	竹内正裕 (代表) 市村由貴他 7 名 (p. 49)
	大学における効果的な授業法 9 (令和 3 年度~令和 5 年度)—本学教育に適した効果的なインスタラクショナルデザインに関する研究— (機関研究報告)	共	令和 4 年 9 月	名古屋女子大学 『総合科学研究所だより』第 35 号	竹内正裕 (代表) 市村由貴他 10 名 1 頁
15. 約束と授業への遅刻の是認及び否認と集団適応(web 発表)	単	令和 4 年 9 月	日本グループダイナミックス 第 68 回大会	発表要旨集 p. 93-94(PDF)	

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・ 展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
その他 (報告書)	大学における効果的な授業法 9 (令和 3 年度～令和 5 年度) — 本学教育に適した効果的なイン ストラクショナルデザインに関 する研究— (機関研究報告)	共	令和 5 年 3 月	名古屋女子大学 『総合科学研究所だより』第 36 号	竹内正裕 (代表) 市村由貴他 10 名 1 頁